

「国土のグランドデザイン2050 ～対流促進型国土の形成～」は、本格的な人口減少社会の到来、巨大災害の切迫等に対する危機意識を共有しつつ、2050年を見据え、未来を切り開いていくための国土づくりの理念・考え方を示すものです。

時代の潮流と課題

- ① 急激な人口減少、少子化
- ② 異次元の高齢化の進展
- ③ 都市間競争の激化などグローバル化の進展
- ④ 巨大災害の切迫、インフラの老朽化
- ⑤ 食料・水・エネルギーの制約、地球環境問題
- ⑥ ICTの劇的な進歩など技術革新の進展

キーワードはコンパクト+ネットワーク

コンパクト+ネットワークの意義・必要性

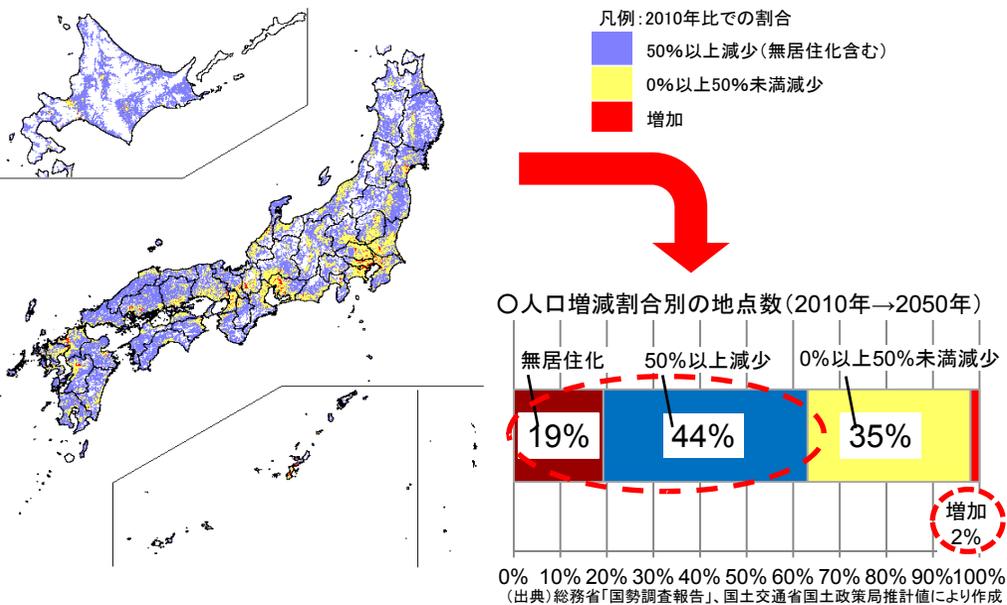
- ① 質の高いサービスを効率的に提供
 - ② 新たな価値創造
- コンパクト+ネットワークにより、国全体の「生産性」を高める国土構造

多様性と連携による国土・地域づくり

- ① 各地域が「多様性」を再構築し、自らの資源に磨きをかける
- ② 複数の地域間の「連携」により、人・モノ・情報の交流を促進

- ・「多様性と連携」を支えるのがコンパクト+ネットワーク
- ・コンパクト+ネットワークは、交通革命、新情報革命を取り込み、距離の制約を克服するとともに、実物空間と知識・情報空間を融合させる
- ・交流は、それぞれの地域が多様であるほど活発化(→対流)
- ・対流のエンジンは多様性(温度差(地域間の差異)がなければ対流は起こり得ない) → 常に多様性を生み出していく必要

【2010年を100とした場合の2050年の人口増減状況】



国土づくりの3つの理念

多様性
「ダイバーシティ」

災害への
粘り強くなやかな対応
「レジリエンス」

連携
「コネクティビティ」

基本戦略

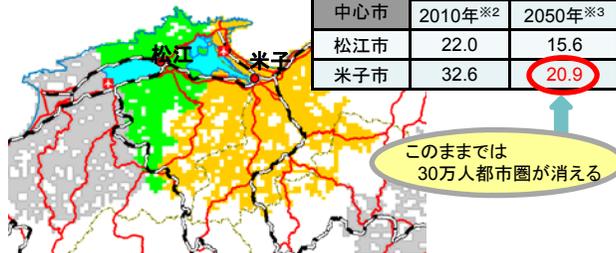
- (1) 国土の細胞としての「小さな拠点」と、**高次地方都市連合**等の構築
- (2) 攻めのコンパクト・新産業連合・価値創造の場づくり
- (3) スーパー・メガリージョンと新たなリンクの形成
- (4) 日本海・太平洋2面活用型国土と圏域間対流の促進
- (5) 国の光を観せる観光立国の実現
- (6) 田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出
- (7) 子供から高齢者まで生き生きと暮らせるコミュニティの再構築
- (8) 美しく、災害に強い国土
- (9) インフラを賢く使う
- (10) 民間活力や技術革新を取り込む社会
- (11) 国土・地域の担い手づくり
- (12) 戦略的サブシステムの構築も含めたエネルギー制約・環境問題への対応

「小さな拠点」



高次地方都市連合

【高速道路を活用しない】

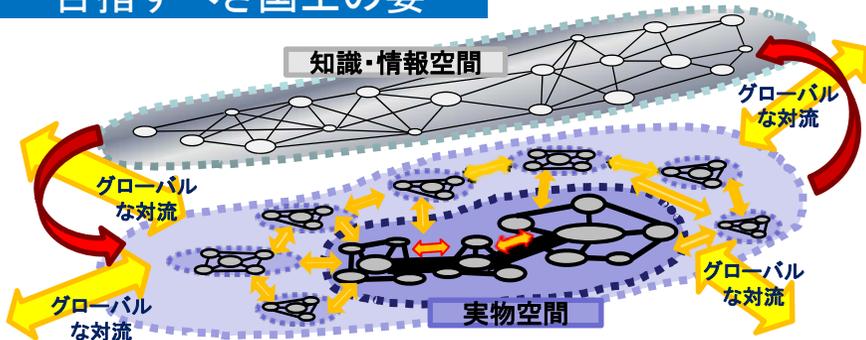


【高速道路を活用】



(※1) 2010年の人口10万人以上の市を中心市とし、自動車で60分以内の1kmメッシュを都市圏として設定。
(※2) 2010年の人口は総務省「国勢調査」による。(※3) 2050年の推計人口は国土交通省国土政策局のメッシュ推計人口による。

目指すべき国土の姿



- ・地球表面の**実物空間**（「2次元的空间」）と**知識・情報空間**が融合した、**いわば「3次元的空间」**
- ・数多くの小さな対流が創発を生み出し、大きな対流へとつながっていく、**「対流促進型国土」**
- 大都市圏域と地方圏域
- ・**地方への人の流れを創出し、依然として進展する東京一極集中からの脱却**を図る

今後の進め方

- ・本グランドデザインも踏まえて、直ちに**国土形成計画(全国計画及び広域地方計画)の見直し**に着手